

第三セクター鉄道に関するこれまでの部会提言と県の対応について

参考資料5

テーマ	部会提言の要点	提言に対応する総合計画の主な取組(※)、取組の内容	具体的な対応の状況
1. 観光需要創出・PR関連	・インバウンド等に向けたイベントや列車装飾の推進(R5) ・子どもや県民を対象とした利用促進・周知(R6) ・地元企業と連携したアナウンスや広告による観光体験創出(R7)	【主な取組③】 沿線観光資源を活用した新たな利用者の掘り起こしを支援します。	○県予算(R8当初) ・利用促進協議会への負担金の納入・協議会派遣職員旅費 3,796千円 ・家族都市プロジェクト協定を活用したプロモーションの一部 ・秋田空港・大館能代空港利用促進協議会における旅行商品造成支援(3セク鉄道貸切を組み込んだ場合の支援) ※ そのほか、会社が行う海外エージェントセールス活動時の旅費を支援 2,400千円(R7・2月補正) ○協議会の取組 ・イベントの支援(田んぼアートの制作、おひなっこ列車等) ・イベント等のPR(観光ガイドマップの作成等) ・多言語対応 SNS 広告キャンペーンの実施(内陸線) ・観光アテンダントの配置(内陸線) ・沿線住民の利用促進(駅前イベント、小学生向け乗車体験等) ・家族都市プロジェクトに基づく取組(クレヨンしんちゃんラッピング列車、車内アナウンス) ○会社の取組 ・各種イベント列車(たなばた列車等)・企画列車(地ビール列車、ごっつお玉手箱列車等)の実施 ・沿線観光資源を組み込んだツアーの実施(康楽館、鳥海ダム等) ・観光アテンダントの配置、SNS人材育成(由利鉄)
		【取組の内容】 ・企画列車のブランド力向上等による稼ぐ力の向上など、県内外からの誘客対策等への支援 ・第三セクター鉄道や沿線観光情報等の情報発信	
2. 利用環境の改善関連	・ストレスを感じない乗車環境(Wi-Fi・電源等)の確保(R6)	【主な取組①】 第三セクター鉄道の安全運行に必要な施設や車両の改修・維持を支援します。	○県予算(R8当初) ・鉄道軌道輸送対策事業費補助金 130,952千円(鉄道施設改修、車両修繕、維持管理等) ※ そのほか、省エネ化に資する軌道整備(枕木交換等)や沿線樹木の伐木・調査を実施 409,710千円(R7・12月補正)、470,000千円(R7・2月補正) ○会社の取組 ・Wi-Fiや充電ポートの設置(内陸線)
		【取組の内容】 ・第三セクター鉄道の安全運行に必要な施設や車両の改修・維持を支援 ・第三セクター鉄道の設備投資及び維持管理に要する経費に対する助成	

(※)県総合計画の「政策2:観光・交流 / 施策5:暮らしと交流を支える交通ネットワークを構築する / 方向性2:第三セクター鉄道とJRローカル線の持続的な運行の確保と観光利用の促進」に記載

【参考】過去3年間の第3セクター鉄道に関する部会提言

年度	提言の内容
R5(2023)	○第三セクター鉄道の利用拡大を図るため、新たなチャレンジによる魅力向上に向けた取組を行うこと。 ・第三セクター鉄道は、各種のイベントや四季折々の沿線の風景など、インバウンド誘客にも親和性が高く有効なコンテンツであることから、引き続き国内外へのPRに努めるとともに、ターゲットを絞ったイベント開催や列車の装飾などの新たな取組にチャレンジする必要がある。
R6(2024)	○県民利用の促進 ・車窓からの景観をはじめとする第三セクター鉄道の魅力や、観光資源としての価値について、県民との共有を図ることが旅行者へのプロモーションにもつながるため、県民を対象とした周知や利用促進に取り組む必要がある。 ・特に、子どもが進学や就職で県外へ出る前に鉄道を利用し、その魅力に触れることが重要であり、子どもを対象とした利用促進に力を入れる必要がある。 ○Wi-Fiや電源の確保 ・利用する県民や観光客がストレスを感じず、また乗ってみたいと思うよう、Wi-Fiや電源など、乗車環境の改善に向けた取組を進める必要がある。
R7(2025)	○地元企業と連携したPRや利用環境の整備に取り組むこと。 ・今後、第三セクター鉄道の通学利用等の減少が予想されることから、観光需要の掘り起こしのため、車内での地元の方の音声アナウンスや地元企業の広告掲示による情報量増加など、鉄道ならではの観光体験の創出を促進するべきである。